

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和5年度農作物病虫害発生予察情報について

令和5年度農作物病虫害発生予報第2号を発表したので送付します。

令和5年度農作物病虫害発生予報第2号

令和5年5月16日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第2半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%、25株当たりの本田生息虫数は1.7頭と、平年(39.9%、1.8頭)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が5月11日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、田植後10~15日後に薬剤を水面施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

II. 果樹

カンキツ

そうか病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第2半旬の巡回調査では、春葉での発生圃場率が18.8%、発病度が0.1と、平年(19.0%、0.1)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が5月11日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生園では落花期に薬剤防除を行う。

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第2半旬の温州みかん巡回調査では、枯れ枝から黒点病菌が確認された圃場率は37.5%と、平年(53.3%)に比べてやや低い発生である。枯れ枝中の α 型胞子数は $0.5\sim 1.5\times 10^8$ 個/g(前年： $0.8\sim 2.7\times 10^8$ 個/g)であった。
- (2) 高松地方气象台が5月11日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝、剪定枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。

(2) 落花期に薬剤防除を行い、その後1か月毎、または降水量200～250mm毎に防除を励行する。

かいよう病(スダチ)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第2半旬のスダチ巡回調査では、旧葉での発生圃場率が100%と、平年(66.4%)に比べてやや高いが、発病度は1.7と、平年(2.3)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が5月11日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝の剪定を行い、常発園では必ず防除を行う。
- (2) 前年、果実の着果量が少ない園では、前年の夏・秋芽が増加しやすく、罹病枝が多くなる可能性が高いため、夏・秋枝の剪定を徹底する。
- (3) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年並

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場(勝浦町)での第1世代幼虫は、5月13日に初発生を認めた(平年:5月15日、前年:5月13日)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤による防除適期は、IGR剤・ネオニコチノイド剤の場合、第1世代は、ふ化幼虫初発生確認の10～15日後、有機リン剤の場合、35～40日後の時期である。
- (2) スダチでは、有機リン剤による防除は行わない。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第2半旬の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が56.3%、寄生葉率が13.6%と、平年(46.3%、7.8%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が5月11日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。防除の際には、かけむらのないよう丁寧散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第2半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が2.5%、発病葉率が0.0%、発病果率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が5月11日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 摘果期に薬剤防除を行う。
- (2) 薬剤耐性菌が出現する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第2半旬の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、寄生新梢率が0.4%と、平年(36.3%、2.4%)に比べてやや低い。

(2)高松地方気象台が5月11日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)葉裏や芯芽に寄生しているの、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1)予報内容

発生時期 平年よりやや早い
 発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)予察灯調査においては、「ツヤアオカメムシ」は、勝浦町では平年(4月21日)より8日遅い4月29日に、上板町では平年(4月21日)より9日早い4月12日に初誘殺を確認し、「チャバネアオカメムシ」は、勝浦町では平年(4月24日)より5日遅い4月29日に、上板町では平年(4月28日)より8日早い4月20日に初誘殺を確認した。なお、4月第1半旬から5月第2半旬までの誘殺数は、平年に比べて少なく推移している(表1)。
- (2)2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、6地点で越冬を確認した。越冬成虫は0.6頭/m²であり、平年(2.6頭/m²)よりやや低い越冬密度で、前年(成虫確認地点数が8地点、越冬成虫数が2.0頭/m²)に比べてやや低い越冬密度であった。
- (3)高松地方気象台が5月11日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

表1 予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年
4	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0
	3	0	1	0	1	2	0
	4	0	1	0	0	7	1
	5	0	5	3	0	69	6
	6	1	1	5	1	89	10
5	1	1	2	28	1	29	28
	2	2	10	24	3	171	18
	3		2	64		71	49

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年
4	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	1	11	1
	5	0	24	1	0	35	3
	6	1	0	3	0	207	1
5	1	0	17	10	5	22	7
	2	5	38	11	3	166	6
	3		6	19		239	12

3)防除上注意すべき事項

- (1)果樹園周辺の雑木林(サクラ、キリ等)から成虫が飛来するので、園内を巡回し、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2)夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3)移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. その他

- 1)薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2)水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無
 発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
 URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。